essais こころみ　2022年8月

2022年8月1日（月）　晴

今日も「危険な暑さ」、最近は男性も日傘をさしている人ちらほら。そうしないと本当にキケン。この暑さもあと習慣ほどの辛抱？

ー　その気になれば　ー

あまりに暑すぎると頭が回りません。冷房があって、助かります。日本はどこも完璧、熱波のイギリスは大変だそうです。

「コロナ」があって映画館は敬遠しますが、夏の行楽は美術館など、屋内で過ごすのがいい。あるいは大型書店の店内を散策するのも一つ。涼しくて、時には思いがけない知に出合えます。

昨夕、なんばのジュンク堂へ行きました。ある一画が賑やかで、何かと思えば、出版図書の著者が来られ、トークイベントがあったらしい。終わっても、ファンの方との交流が続いていた。

仕事上でよく、大型書店の〈徘徊〉を勧めます。何か専門性はもっているけど、同業他者から一抜ける独創性は、同質なところからは生まれないので、多様な知に接する必要があるわけですが、どれが自分の役に立つか、そのアンテナを利かすのに、大型書店はよいフィールド。

図書館もまたいい。新しい本はありませんが、ビジネス系なども、一昔前ぐらいの本の方が内容面で充実していることがよくある。大阪市立図書館の中央館は広々として、何よりアクセスがよく、good。

国立国会図書館の関西館は「けいはんな」にあります。この関西館がもっと近くにあれば…と思いますが、アクセスが悪いだけに、館内に人はまばら。一度だけ行ったことがありますが、知の森にどっぷりひたりまし

そういえば、「夏は難解な哲学書を読むのにいい季節」と言った知人がいます。たぶん、汗をかきかき読むという意味でしょうが、さすがに、今の時代は…。

それはさておき、その気になれば、直に多様な知にふれられるものです都市生活は。

＊よく晴れた１日の夜、西の空に三日月

2022年8月3日（水） 晴

今朝も暑い、今日も「危険な暑さ」の予報。秋田、青森で大雨がすごい状況になっているらしい。さきほど速報が入った。一年のうちで天気の安定する期間がどんどん短くなってきている？

ー リスク回避のよい術 ー

昨日また詐欺事件のニュースがありました。今度は40代になったばかりの女性の市議。たぶん主犯格は一緒に逮捕された別の人物だと思いますが、そうだとすると、本人も積極的に共謀したのか、渋々か、はたまたハラスメントをうけてか、そんな想像も働きます。

今の段階のニュース記事では、政治を自己満足の道具に使っている人のように見えるので、一番目と想像しますが、さてどうでしょう。

先日の芸人さんの投資問題ニュース同様、今回の事件も、ビジネスの世界を読む一つの材料として、関心をよせます。事件は時代を映す鏡でもありますから。

ねずみ講、マルチ商法、今はネットワークビジネスという世界は、以前ならけっこう垣根がありました。それがSNSの登場で垣根が低くなった。起業準備のコミュニティーと思って参加したら、「マルチ」だったということも多い。本当に多いので、注意する人も増えてきたようですが。

そう、注意力を利かせ、まずは妙な世界に足を踏み入れないようにしたいものです。そこがうまくいかず、接点をもつことになっても、誘いに乗る気がなければ、明確に拒否する。たぶん、そこが苦手な人が多い。

日頃から自分の考えや意思を表わせている人、たとえばわたしなどは、そのような誘いをそもそも遠ざけています。それに気づいたのは30代半ばです。知ってみると、友だちはけっこう誘われて、困っている。

“へぇ、そうなんだ…”、自分の知らない世界を知った気がしたものです。同時に、そうか、だから、人間関係であまり不愉快な想いをせずに済んできていたんだ…と気づきました。こちらの考えがすぐにわかるので、相手に判断材料を与えることになる、付き合いたい人かそうでないか。

自然な自己主張・自己表現は、リスク回避のよい術ともなる。そう思いますが、いかがでしょうか。

2022年8月5日（金） 雨、曇、晴

朝のうちラジオの番組がなんども中断して気象の警戒情報が流れる。滋賀や奈良でも災害の危険性。大阪市内は天気がコロコロ変化。なんとなく全体におだやかでない。こういう日は事をおこさず、じっとしていよ

－ 感じ、気配、勘 －

ついさきほど晴れていたのに、また急に曇ってきました。早朝からの今日の天気の変化は、ちょっと普通じゃない、そんな感じがします。予定では梅田に出て用事一つ済ませるつもりでしたが、やめました。

「感じ」や「気配」はけっこう大事な身体感覚だと思っています。「勘」も、人間の高度な情報処理の賜物だろうと捉えています。「気配」については、日経の日曜版で3月に取りあげていました。これがなかなかお

触覚が、振動・圧力・温度の3つの要素に分解できることがわかった、というのは、ずいぶん前に何かで読みましたが、さらに体毛が大きな要になっているそうで、妙に感心しました。なら、顔そりもあまりしない方がいいのなかぁ…?と。

視覚障がいのある人がものの位置を把握できるのは聴覚のなせるワザと『自然は導く』にも書いてありましたが、「気配」に聴覚の働きは大きいようです。そこに嗅覚、触覚、視覚…。いやはや、人間はすごい。

嗅覚も、脳への媒介役の嗅球は1年で70%が新旧入れ替わるそうですから、その作用が鈍らないよう、個人的にはパウダーやスプレーを吸わないように気をつけています。

そういえば、「勘」については、先日ちらっと読んだ本に次にように書いていました。「勘」には「気配」が織り込まれていると言えそうです。

『その正体は練習や実践の繰り返しにより形成された専門的なスキーマ。それにより情報処理に違いが出る。常人では識別困難な微細な違いを感じ取り、また行動を予測し、先読みすることができる』。

2022年8月9日（火） 晴

「危険な暑さ」が続く。昨夕のニュースによると、汗をかきすぎて、皮膚を患う人が増えているそう。「汗をこまめに拭き、洗うなどして清潔に…」と紹介していたけど、肝心なのはそのあとの保湿。皮脂がない状態では菌を防げない。顔も、夏こそ乳液よりも汗につよいクリーム。

－ 社会の断層 －

仕事を通じて様々な想いをもった人と出会います。まったく気にとめることもなかった社会の断層をみることもあります。昨日は虐待などを受けた子供のうち、精神科病棟へ即入院というケースも多いと知りました。場合によっては、そのままずっと病院内での生活…。

ネット検索してみると、NHKの番組がこの問題をとりあげていました。久留米に専門病棟を2019年につくった病院があるそうで、入院する子供が増えたのが設置の理由とか。

子ども受難の時代。時々そんな風に思いますが、考えてみれば、昔からそうです。今も途上国では児童の労働、人身売買がある。日本もかつてそうだったし、今はネット上に自分の子を売る親もいます。

子どもの問題は大人の問題。直接関係はなくても、自分を生きることなく精神病棟ですごす子どもの姿を想像すると、思わず大きく息を吸い、吐く間が長くなります。

最近目につくなぁと感じていることがあります。事務所へ来て、帰る移動のごくわずかな範囲なのに、よくないいい方ですが、人間としてこわれているように見える人が増えた。

社会の構造が、強い者はより強く、弱い者はより弱くしていっている。そう感じて久しいのですが、それが目にみえるようになってきたのかもしれません。自分の精神をどう守るか、すごく大事なことになっています。

2022年8月11日（木）

2022年8月12日（金） 曇り

台風接近の影響か、曇り空。今夜は満月だが、拝めそうにない。昨夜は月がでた。月の出まもない、ほぼ満月の一枚を撮った。一ヶ月後の9月10日は十五夜。

－ 小さなことに目配せ －

毎日いろいろなニュースが飛び込んできますが、北九州市小倉の商店街であった二度目火事には、考えさせられます。4月の火災をまぬがれた歴史ある映画館が今回焼失したそうですから、あぁぁ…。

なぜ半年もたたず再び火事は起きたのか、起こしたのか。NHKあたりが究明番組をつくりそうですが、何より商店街組織として検証していく必要がありますね。

先日大阪では商店街でひき逃げ事故がありました。小さな命がなくなってしまった。何より運転手が悪い。同時に、来街者が多くなっているのに、具体的な対策に時間と労力を費やさずにきた商店街組合の責任も問われると個人的には感じます。

とはいえ、気になりつつ行動はずるずると先延ばしにする、なる。これは人間の常。だから戦略やマネジメントが意義がずっと言われ続けるわけ

現状をよりよくしようと思ったら、まわりへの働きかけも必要になって、目にみえるコストだけでなく、心理的なストレスもかかります。軋轢や葛藤はつきもので、それを考えると、できればじっとしていたい気になる。

当面は気が楽かもしれない、でも、遅かれ早かれ、「指数関数的不安定性」にさらされる。取り返しのつかないことにもなり得ます。

この「取返しのつなかい」ことがおそろしい。とにかくそうならないように、小さなことにもちゃんと目配せできるようにしておかなければと感じるこのところのニュースでした。

2022年8月15日（月） 晴れ

今朝は風がなかった、暑い。風があるのと無いのでは大ちがい。15日、地下鉄は休日運行だった。街がなんとなく静か。

－ 賢くなった気になる本 －

ときどき引用している『私の日本語雑記』。とてもとても、日本語雑記というタイトルの枠を超え、いろいろな専門職の人に示唆を与えてくれる本。折に触れ、まわりの人に勧めています。著者は「中井久夫」。

10日の朝刊に写真入りで訃報が載っていました。えっ?!と思わず見直しましたが、88歳、そうか、とうとう…という気持ちです。面識はまったくありませんが、中井先生と親しく呼んでいます。

それなりに本の数は読んできています。それでも『私の日本語雑記』には妙な感覚をおぼえました。読んでいるうちに、自分が賢くなったように感じられたのです。

ストーリーの世界に入る、描かれた場面が見える、そういうことはよくありますが、賢くなったような感覚なんて、なんとも妙です。

訃報を知って、この機会に何か別の本を読んでみようと、図書館の蔵書検索をして、よさそうなものを一冊見つけました。著作集の一冊で、エッセイをまとめた『世界における索引と徴候』。

土曜に借りて、昨日読み始めました。最初は『意地の場について』。それほど長い文ではありませんが、読み終わる頃には、前の本と同じような感覚になった。これはどういうことでしょう。

考えてみれば、前も今回も、どちらの本も、精神科医であり古典文学の翻訳なども手がける中井先生の精神性の深淵をかいま知る、そういう内容のものです。

それに浴して、読む者の気が澄み、頭がクリアになる。それが、何となく自分が賢くなったような気になるのかもしれない、そう考えました。

実際『意地の場について』を読みながら、こんな風に「意地」を観て、考えられるなんて…と、ただただ、驚嘆。書いて、残してもらっていることが有り難く感じられます。

示唆。本当にそういうものを与えてもらう一冊。30年前に書かれたものが集められていますが、世界の今を物語る伏線と、今後を考える視点が潜んでいそうです。ゆっくり、読んでいこうと思います。

2022年8月19日（金） 晴

昨日は涼しかった。本当に久しぶりで、暑さがどれほど生産性を下げるか実感。来週はまた暑くなるらしいが、ほっと一息。

－ ギャップの質 －

先日から読んでいる老子の道徳経、わかるようでわからない、わからないようでわかるような気もする。それが二千年以上続く理由なのでしょう。研究者でない限り、詩文のように、読む人の感覚でとらえればいい。たぶん、読むごとに感じ方も変るだろうと思います。

映画は倍速でみて、本は要約で済ませる人が増えているそう、特に若い人に。実用書については、それでもいいんじゃないかと思いますが、それ以外で〈つまみ食い〉ばかりしていると、その人の知性、感性、感覚、情感などはどう養われて、どう社会的知性が備わっていくでしょう。

先週日経朝刊のフィナンシャル・タイムズのコラム『20代社員をどう向き合うか』には頷きました。20代の意識と行動に、経営者や上の世代が困っているのは世界共通のようです。「過保護に育てられた」20代に、「苛立っている」と書いてありました。

記事には専門家の助言が紹介されています。「まずは彼らの言い分を聞き、質の高い訓練を与えること。ただし、いかなる状況でも彼らの気まぐれな要求をいちいち受け入れてはいけない。彼らの生活まで支援するのは会社の役割ではない」と。

世代間ギャップはつきものですが、質が変わってきました。上も下も、理解はできなくても許容はできたものですが、そういうこともなくなってきた。とすると、精神的ストレスも増しますね。

そのままだと爆発してしまうので、適度なところで、「要求をいちいち受け入れない」きっぱりと姿勢が示すことが、どちらにも必要なのでしょう。時には毅然と、ということになるでしょうか。

2022年8月22日（月） 晴

残暑が厳しい、残厳暑。それでも日は短くなってきて、夜には虫が鳴いている。♪夏がすぎ、風あざみ…。

― 狎れ ―

コロナ感染者が過去最高を記録しても、3年目ともなると、社会生活に大きな変化なし。これも一つの学習効果かもしれません、慣れ。

「慣れ」は〈なれ〉でも「狎れ」。意味は「礼を欠くほど馴れ馴れしい」。17年ほど前、キーボードで「なれる」を入力したときに候補に「狎れ」があって、はじめて知りました。以来、自分自身への戒めとして、頭の隅に

プライベートでも仕事でも、いったんできた関係性は長く続きます。平均以上に価値観などの共通性を重視するタイプなんでしょう、関係ができるということは先方もそうですから、長く続くことになるのです。

そのうち、ややもすると馴れ馴れしくなりかねない。目にみえる態度が、というよりも、たぶん意識面で、です。そうなってはいけない、という意識がありますから、「狎れ」がささったのだと思います。

長い付き合いの中で、例えば、あえて一報を入れたほうが先方には助かるようなことが、意識にのぼらない、なんてケース。仕事に大きな支障が出るわけではないけど、よりよく仕事を進めようとすれば、やっておいた方がいいようなこと、そういうことが抜けてしまう。

「狎れ」を知ってから、そうならないようにと肝に銘じているつもりですが、それでも、小さな反省を時々します。わかっているつもりのことを、ちゃんと実践する。

なかなか難しいことですが、だから、〈われにかえる〉、〈われをふりかえる〉が時間が大切なんだろうと思っています。

2022年8月26日（金） 曇り

週間予報では晴れのはずだったけど、今朝は曇り。8月も残り一週間、さすがに朝晩の暑さは昨日あたりから少しやわらいできた。明日は旧暦8月1日新月、中秋にはいる。

― 「詩には、読みおえるということがない」 ―

大人になると小説を読めない。恩師がそう話したことがあります。「小説より奇なり」な実社会の経験がふえて、初々しく読むことができないという意味だろうと思います。

では、詩はどうでしょう。小説よりも詩のほうがもっとそうじゃない？ 一瞬そのようにも感じますが、いや、たぶん、その範疇を超えている、詩というものは。

８月９日にふと思い立った老子『道徳経』の音読。4年前に別の本の中にこれも一つの「兵法」と書いてあったのをきっかけに、学術的な訳本と詩集のような訳本の2冊を買っていたのです。

買ってすぐに読んだのは79中14編だけ。すべてを読む意味も感じなかったのです。折にふれ開いて、1、2編読む。あるいは、いつか一気に読みたくなる、そういう時がくる、かもしれない。そのために買ったようにも思えたのでした。なら今回の音読は、その地ならし？

昨日の日経夕刊のコラム「あすへの話題」に「大江健三郎」の本からの引用が紹介されていました。時代をとわず、戦地にたおれた兵士の背嚢から詩集がみつかるのだそう。若い頃読んだ小説に同じようなことが書かれていました。

戦地に詩集をもっていく。小説は読み終えるもの、でも、「詩には、読みおえるということがない」と大江健三郎は書いているそう。なんとも平易な一文で本質をついているものです。

79編のどれを、いつなんどき、あたればいいかわかっておくためにも、〈地ならし〉の音読だけはし終えておこうと思いました、まったく個人的なタスクですが。